

# 社協内部の相談支援体制の構築

## ○支援チームの試行的実践から見たこと

### 専門職間の連携課題

- \* 支援チームは何をしてくれるのかはっきりしない
- \* 会議で出された支援方策の調整役が明確でない
- \* 会議で出された支援方策の実効性について疑問がある
- \* 会議のゴールが不明確である
- \* 支援者会議との違いがわからない

### 地域づくりの課題

- \* 対象者発見のポイントがわからない
- \* 気になる人を見つけてもどう声かけてよいかわからない

### 住民と専門職の連携課題

- \* 気になる人をどう専門職につなげてよいかわからない
- \* 気になる人をどこにつなげるかわからない

### 克服すべきこと

- \* 専門職は、法制度の中での業務になり、分野を超えて横断化した支援のトレーニングができていない
- \* 行政、事業所と所属が異なるため、意識の統一ができていない

「気づき」のポイント  
チェックシートの作成  
事前資料5-1, 2参照

## 令和2年度 社協内部の検討会議発足

### 検討内容

- 事例検討(生活困窮、包括)
- 各相談内容レビュー
- 職員アンケートの実施

### なぜ社協なのか

組織内に各分野の相談窓口があり、それぞれの専門分野の相談員による多職種連携を検討できる

### 検討からわかったこと

- \* 各相談窓口では、複合・多問題の世帯（8050世帯、経済的に困窮した高齢者や障がい者、障がい疑いの生活困窮者やひきこもりの方、地域住民が見まもっている支援拒否の方）からの相談を受けていることを再確認した。
- \* 複合・多問題の事例を抱え込まないように、支援について検討や情報共有する場、その進捗管理をする仕組みがない
- \* 分野を横断して各専門職が交流する場がない

## ○必要なしくみ

各相談窓口が  
相談を受けとめる

- \* 分野を超えても受け止める
- \* 複合・多問題の事例はチームで支援する

(仮)社協内支援チーム  
社協内の各相談窓口が参加

### 支援チームの役割

- ①複合・多問題の事例について、支援方針を検討し、複数の相談窓口で協働支援する
- ②検討した事例について、支援の進捗管理を行う
- ③専門職同士顔を合わせる場や、研修の場の機能も有する